

## 東京の水産市場の歴史

豊洲市場は、1935年に開場し、2018年に閉場するまで、人気の観光地として、また世界的なブランドとして栄えた築地市場の後継市場として、現在多くの来場者に知られている。しかし、築地以前の東京の魚市場は、商業の中心地である日本橋に拠点を置いていた。1600年代初頭、徳川幕府（1603-1867）が江戸と呼ばれていたこの街を本拠地とし、日本の事実上の首都とした直後に、ここにもともと魚介類の市場が誕生したのだ。

### 日本橋魚河岸 - 江戸の海産物の源

徳川家康（1543-1616）は、天下統一・幕府設立を成し遂げる10年ほど前に、江戸城の徳川家や家臣たちに魚を供給するために、34人の漁師たちを大阪から江戸に呼び寄せた。その仕事をこなすために、現在の東京湾全体を対象とする自由な漁業権が与えられた。森孫右衛門という人物を筆頭とする彼らは日本橋の海岸に拠点を置いていた。

1610年、徳川は森孫右衛門の息子に、幕府が必要とする以上の魚介類を一般の町人に販売する権利を与えた。これが日本橋魚河岸の始まりとされている。幕府が江戸の拡大・発展のために大規模な土地開発を行うと、江戸の人口は増加し、海産物の需要も増えていった。この需要を満たすために多くの漁師が江戸に移り住み、野心的な水産物商人たちは、江戸と全国の主要な漁港を結ぶ供給ルートを確立した。1600年代半ばには、日本橋魚河岸は全国の水産物取引の中心地として繁栄していた。そして、その地位は200年ほど続いた。

1867年に幕府が倒され、翌年には明治維新を迎え、日本の近代化が始まった。政府主導で進められた急速な工業化によって、東京と名付けられた街の見た目は一変したのである。農家、木造の町家、武家屋敷に代わって、工場、銀行、鉄道、官公庁などが建設された。商業の中心地であった日本橋には、デパートや東京証券取引所ができ、臭いの気になる魚河岸を中心地から外すべきだという声が高まった。しかし、広大な市場の移転は困難であり、解決策が見つからないまま数十年が経過していた。

全てが変わったのは1923年：マグニチュード7.9の関東大震災が発生し、10万人以上の犠牲者が出た。この地震と火災により、魚市場をはじめとする東京のインフラの多くが破壊された。しかし、この災害は革新と再生の機会となった。現代の日本を反映した、より大きく、より良い魚市場を建設する計画が進められた。建築家や技師は海外に派遣され、新しい市場施設を設計する際に参考となる建物を調査した。

### 築地市場 - 現代都市のための魚市場

東京の新市場に選ばれたのは、関東大震災の後に仮設の魚市場が設置された築地だった。この地名は、1657年に江戸の3分の2を焼失した後、隅田川の三角州の一部を埋め立てて築地を造ったことに由来する。徳川幕府が江戸に召集した漁師たちが行った埋め立て作業であったことを考えると、この地が水産市場の用地に選ばれたことに縁を感じる。

1935年、築地市場は、青果市場、鉄道駅、埠頭などを備えた耐震性の高い最新の施設としてオープンし、成功を収めた。戦後、その取引量は日本経済と同様に右肩上がりだった。築地は世界最大の魚市場に成長し、寿司を中心とした日本食の普及により、築地ブランドは世界的に知られるようになったのである。

しかし、築地市場は自らの成功と日本の急速な都市化の犠牲となった。1963年、東京都の人口は1000万人を突破した。500万人規模の都市のための施設である築地では、水産物や農産物の取引量が際限なく増え続け、キャパシティ問題が深刻化した。そこで、より大きな市場を建設する必要性が議論されるようになった。

#### 豊洲市場 - 過去と未来が出会う場所

日本橋市場の移転の時と同じように、築地市場の移転先に関する結論が出るまでには数十年の歳月が必要だった。江戸の漁師たちが網を張っていた東京湾の浅瀬に、関東大震災で倒壊した建物の瓦礫を埋め立てて作った埋め立て地である豊洲が合意されたのは、2001年のことだった。2018年には豊洲市場がようやくオープンし、東京の魚市場は、季節を問わず新鮮な食材が取引されるよう、最大限の効率性を追求した超近代的な施設に生まれ変わった。豊洲市場には、主な卸売市場の施設等に加えて、世界最大の魚市場の取引を監督し賃金などを管理する専用の管理棟がある。また、豊洲市場は築地市場とは異なり、観光客や市場関係者の安全を確保するために、一般の人の出入りにも配慮して設計されている。

しかし、豊洲市場で働く人々は、近代的な建築物や技術に囲まれながらも、何世紀にもわたって受け継がれてきた東京の魚市場の文化と伝統を守り続けている。セリの際には昔ながらの手信号で入札を行い、日本橋魚河岸で創業した企業が豊洲でも営業を続けている。また、豊洲市場には、森孫右衛門らが400年以上前、江戸に出てきたときに海の神を祀った神社から派生した「水神社」があり、伝統的な神事も行われている。